

TPC マーケティングリサーチ株式会社

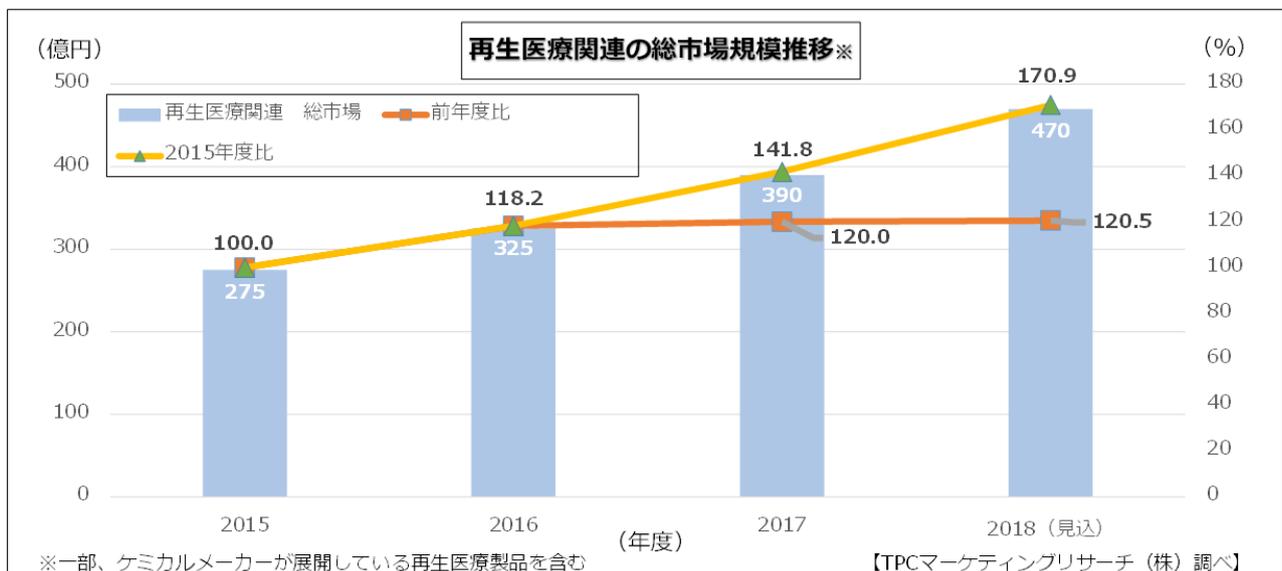
ケミカルメーカーの再生医療事業戦略について調査結果を発表

この程、TPC マーケティングリサーチ株式会社（本社＝大阪市西区、代表取締役社長＝川原喜治）は、ケミカルメーカーの再生医療事業戦略について調査を実施、その結果を発表した。

【調査結果】

2017 年度の再生医療関連製品・サービス事業の市場規模は、前年度比 20.0%増の 390 億円となった。

新薬開発や既存薬の適応拡大により、2030 年には 3,600 億円となる。

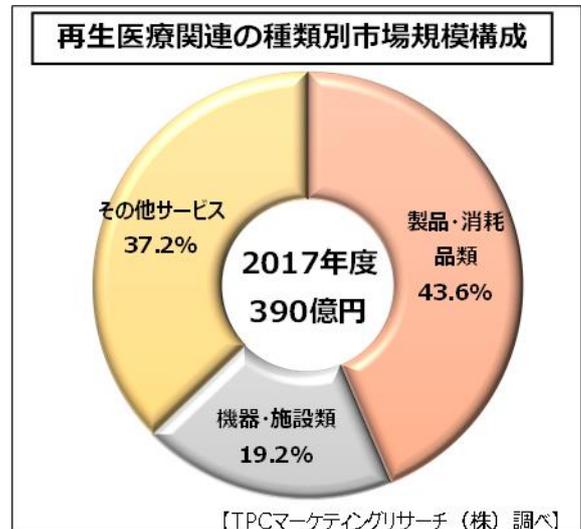


- ・ 2017 年度における再生医療関連製品・サービス事業の市場規模は、前年度比 20.0%増の 390 億円となった。
- ・ 同市場は、年々二桁ペースで成長している。要因としては、再生医療製品において、新薬開発や既存薬の適応拡大などにより、これに関連する消耗品、製造機器、輸送サービスなど周辺産業の需要が拡大していることが挙げられる。
- ・ 2018 年度以降も、この傾向が続くとみられ、前年度比 20.5%増の 470 億円で引き続き拡大推移する見込み。さらに、2020 年には 660 億円、2030 年には 3,600 億円の規模が予測される。
- ・ なお、総市場規模には、一部ケミカルメーカーが展開している再生医療製品が含まれている。

種類別では、製品・消耗品類が構成比 43.6%の 170 億円で最大となった。

伸長率では、機器・施設類が前年度比 25.0%増で最も高い。

- ・ 種類別では、製品・消耗品類が構成比 43.6%の 170 億円、機器・施設類が同 19.2%の 75 億円、受託製造 (CDMO) などその他サービスが同 37.2%の 145 億円となっている。
- ・ 伸長率で見ると、機器・施設類が前年度比 25.0%増で最も高かった。次いで、その他サービスが同 20.8%増、製品・消耗品類が同 17.2%と続いている。どの分野も 2 桁の成長を見せているなか、機器・施設類及びその他サービスは、再生医療の研究が活発化していることから、製造用機器や受託製造サービスのニーズが急速に拡大している。
- ・ 2018 年度も引き続き、各分野とも 2 桁成長で需要拡大する見通し。



企業別では、富士フィルムがシェア 46.2%の 180 億円でトップ。

同社には、「細胞」「足場材」「培地（サイトカイン）」を全て自社開発できる体制がある。

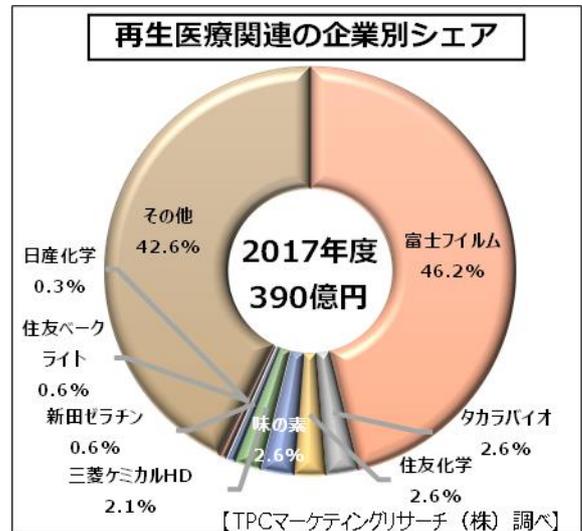
- 企業別では、富士フィルムがシェア 46.2%の 180 億円でトップとなった。次いで、タカラバイオ、住友化学、味の素がそれぞれ同 2.6%の 10 億円で続いており、以下、三菱ケミカルホールディングスが同 2.1%の 8 億円などで続く。

- このうち、富士フィルムは、M&A を通じて再生医療事業会社を買収することにより、売上が拡大している。すなわち、ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング、和光純薬工業、米国の iPS 細胞の開発・製造等を手掛ける Cellular Dynamics international など

を子会社化することで「細胞」、「足場材」、「培地（サイトカイン）」を全て自社開発できる体制を整えているといえる。更に、和光純薬工業が臨床検査薬の販売を通じて、全国に築いたネットワークを活用することで自社製品を拡販している。

- また、タカラバイオは、国内で CDMO 事業が、海外では米国の研究用試薬及び理化学機器メーカーの買収が売上の拡大に大きく貢献している。今後は、製造設備の拡充による製造能力の増強と研究用試薬の新製品開発を推進することで、更なる増収を目指す。

- このほか、味の素は、自社のコラーゲン技術を活用した iPS/ES 細胞培養培地「StemFit」シリーズや培地関連素材の売上が拡大推移している。今後は、これらに加えて 2018 年 6 月に再生医療等培地製品の製造受託を主に設立した味の素コージンバイオの売上が上乗せとなる見込み。



【調査要覧】

<調査対象製品>

- ◆製品・消耗品類[細胞（再生医療細胞医薬品、iPS細胞由来分化細胞製品、細胞分離製品、細胞シート、羊膜MSC製品）、足場材（細胞外マトリックス（細胞外基質）、培養基質、プレートコーティング剤）、培地（iPS/ES細胞培養培地、平衡塩溶液、細胞剥離・分散用溶液、抗生物質溶液、培地添加剤、培養デバイス、生体組織工学用コラーゲン製品、細胞培養基材）、その他（搬送用容器、細胞凍結液、生体物質付着防止材料、フラスコ、シャーレ、糖鎖関連製品、遠沈管、コニカルチューブ、ピペット、試薬ゼラチン、潜熱蓄熱材、羊水懸濁同種移植製品）]
- ◆機器・施設類（細胞加工施設、アイソレーター、自動培養装置、細胞凍結保存用システム、細胞観察装置、細胞分離デバイス、細胞濃縮洗浄システム、細胞機能探索システム、細胞評価システム、品質管理機器）
- ◆その他サービス（再生医療受託、研究開発、製法開発）

<調査対象企業>

富士フイルムHD、三菱ケミカルHD、タカラバイオ、日産化学、住友化学、住友ベークライト、新田ゼラチン、味の素、日立化成、カネカ、東ソー、旭化成、大日本印刷、ニッピ、横河電機、AGC、Athersys、Vericel、Organogenesis、Fibrocell、Mesoblast、Pluristem

<調査期間>

2018年7月～2018年11月

<資料名>

「2019年 ケミカルメーカーの再生医療事業戦略調査」

—再生医療市場の拡大を支えるケミカルメーカーの事業戦略とは？—

<http://www.tpc-osaka.com/fs/bibliotheque/mr410180438>

発刊日：2018年11月30日 頒価：97,000円（税抜）

【会社概要】

会社名：TPCマーケティングリサーチ株式会社

所在地：大阪府大阪市西区新町2-4-2 なにわ筋SIAビル

事業内容：マーケティングリサーチおよび調査レポートの出版

コーポレートサイト：<http://www.tpc-cop.co.jp/>

オンラインショップ「TPCビブリオテック」：<http://www.tpc-osaka.com/>

ISO27001認証書番号：IS598110

【本件に関するお問い合わせ】

フリーダイヤル：0120-30-6531